

法人名	社会福祉法人 恵春会	代表者	小林 佳之
事業所名	くまのしょう	管理者	米村 ゆかり

法人・事業者の 特徴	<p>あたたかく、やさしい介護。必要なときに、必要な介護。</p> <p>みんなが集まる施設づくり。考えて行動できる職員を育てる を目標とし、</p> <p>個人の思いに寄り添い、利用者さんと職員が和み、自然と笑顔になる環境を目指し介護に取り組んでいます。</p>
---------------	--

出席者	市町村職員	知見を有する者	地域住民・団体	利用者	利用者家族	包括センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
			3			1				4

項目		前回の改善計画	改善に対する取組み	意見	今回の改善計画
A	事業所自己評価の確認	毎日のミーティングだけでなく、夕方にも実施することで利用者さんの情報や処遇の内容を振り返る機会を持つ。一人ひとりの職員が問題意識を持つ。	職員間のコミュニケーションを図り、情報共有することに重点を置く	最近様々施設が次々と開設されていますので選び方も迷いがあると思います。施設をアピールする方法も考えられればと思います。	職員全員が発言するミーティング・会議の運営をする。情報共有・連絡・報告を職員が意識し、サービスの向上を図る。
B	事業所の しつらえ・環境	地域の方が寄りやすい環境作りを行う	近隣者や散歩中の人への声かけを行う	施設の中ではゴミ一つなく、きれいに清掃されており臭いもない状況です。施設の出入りに気を使うこともなく、気持ちのいい挨拶を受けます。	施設内外の清掃を行い、清潔な環境を保つ。庭に花を植え、季節感を出し、明るい空間を作る。
C	事業所と地域のかかわり	くまのしょうカフェ再開の協働を始め、ボランティア協力の呼びかけを行い地域に開かれた施設作りを目指す。地域独自の行事にも積極的に参加する。	地域行事には少数で参加。ボランティアの呼びかけはできておらず。くまのしょうカフェには運営でなく体操等でも参加	地域行事への参加は積極的に参加されているようで前向きな姿勢は評価できると思います。	地域住民と顔馴染みの関係を構築する。小学校や保育所のイベント協力や交流の機会を持つ機会を作る。施設独自でのサロンやこども参加型の行事を企画する。
D	地域へ出向いて本人の暮らしを支える仕組み	独居や高齢者世帯の利用者への支援を多面的に考える。老人会やサロンに出向き、施設のPRをする。地域の困りごとをいつでも相談できるようし支援する	訪問による支援を充実。地域サロンへ4回協力するも施設PRまでには至っておらず。地域住民と顔見知りになりつつある		訪問のみの利用者の場合、隣近所への情報提供を行い、生活支援を行う。職員が地域の社会資源を知ることから始める。住み慣れた家で暮らしたいとの思いに応えられるように多様な訪問の支援を行う。

E	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p>	<p>運営推進会議では事業所の事業説明のみならず、課題も協議し地域や施設だけの課題とせず、協働の意識を持ち対応すべきである。</p>	<p>職員参加は1回のみ。施設の取り組み内容の理解はあるが職員の意識は薄い。地域課題までには至らず。</p>	<p>事業所の内容が全ての事に分かり易く説明があり納得しています</p>	<p>職員が運営推進会議に参加し、意見を述べる機会を持つ。</p>
F	<p>事業所の防災 ・災害対策</p>	<p>地域消防団や地域住民との合同訓練や防災時の対応検討会の実施に取り組んでいきたい。</p>	<p>台風接近時は、独居者へ安否確認の声かけ実施</p>		<p>避難確保計画（洪水対策を含む）の作成をし、活用する。災害時は、場の提供をする</p>